

細道に佇む逸品たち



下の電車でも眺めながらひと休みなんて結構気分いいんだぜ。この頃は灰皿持参で一服なんて輩も多いね。きっと家も会社も禁煙なんだろうね。煙草飲みは、俺達より邪魔者扱いみたいだ。ああ、ずっと向こうにいる台車のオッサンね。あの人は微妙な立ち位置だなあ。ちょっと前まではガラガラ活躍してたけど、近頃はエンスに寄りかかったきりなんだ。夕顔の蔓がキャスターに巻き付き始めてさ。でもいつそ植木鉢でも置いて貰つて、電車眺めながら暮らす余生つても悪くないと思うね。

まあまあそうせかせか歩かないで、俺んどこお座りよ。
ああ言つとくけど俺、粗大ゴミじゃないからね。かといってバス停前に置かれた、タンス再生たの新堀ギターなんかの広告が付いたおんぼろベンチとは一緒にしないでくれよ。スカッと爽やかなアメリカンベンチさ。えつ、古いって？ 堅いこと言うなつて。

最近は公園の売店くらいでしかお目に掛かれないと、こんな半分私道みたいなところならさ、人様の邪魔にもならないだろ。今は寒いけど、もうちょい暖かくなつたら、崖



高野金次郎商店

親切第一 平成29年3月号

版元: 東京ベンギン堂本舗・高野ひろし 豊島区北大塚2-26-2
fax: 03-3917-1949 RMX04421@nifty.com

協力: 高島平電腦研究所、美地河岸工房
関連ウェブ: 各種検索エンジンで「東京ベンギン堂本舗」検索するとポータルサイトに辿り着けます。http://shiosenbe.boo.jp/

勝手にお気に入り5

近所まで行くとつい買つてしまつ、安くてつい

コーヒー豆屋ベスト5

・小島カフエテラスコーヒー

・鍛冶町、神田珈琲園

・浜松町、横山コーヒー店

・神保町、倉木コーヒー商店

・池袋、ドリームコーヒー
・由比ヶ浜、アジア商会



同じくらいの身長の物に出

会つて、ちょっと嬉しい。いつ

も見上げてばかりの街歩きな

ので、肩が凝るんだ。超撫で

肩だけね。だからあのオレ

ンジコーンつていうのかな?

工事現場によくある三角

帽子の親方みたいな奴を

見ると、ついそばに寄つ

しまう。しかも見事なト

ラス構造の三角形。ピラ



ミッドパワーでも貰えそ
うな気分。

でもこんなのが置いて

あるってことは、銀座で

一番胴長な中小企業会館

も工事するのかな?

上

銀の輔銀座千枚

に伸びる建物ばかりの街で、

横長つて贅沢だよ。こういう

贅沢は続けて欲しいな、贅沢

な街なんだからね。

銀座通りを横切つてガス灯

通りに出たら、レトロ風モニ

メントの周りが、工事現場の

辺でがっかり固められてた。

街の記念碑として大事に思わ

れてるのか、「君さえいなければ、真っ直ぐに開えたのに」

と思われてるのか、微妙だな。

先輩を敬うのは人も街も同

じだね。万が一胴長ビルが建

て替えられるなら、やっぱり

胴長で、ガス灯通りはガス灯

が似合う風景でいて欲しいね。

東京。チアーカイブ

例によって旧実家から剥がした中途半端に古い写真から手繰る東京物語。

僕が秋葉原通いを始めたのは昭和四十年代半ば。ラジオ工作の部品探しに、初めてガード下を訪れた時の衝撃は忘れら
ンダードと数個の知椅子、メニユーはアーメンと大盛りしかない素っ気なさ。

ンタード数個の丸椅子、メニューはラーメンと天盛りしかない素っ気なさ。ちやちやっと作って出されたラーメン

の、生姜が効いた鶏がらスープと縮れ麺との融合に、僕はまんまとハマった。そして長い間気が付かなかつたことが悔い

移行していく。まだ駿前にはやつちや場の、吹き抜けがらん堂が残つて、もう機能は停止してたので、自転車で駆け抜けたりテニスしたりしてた頃。

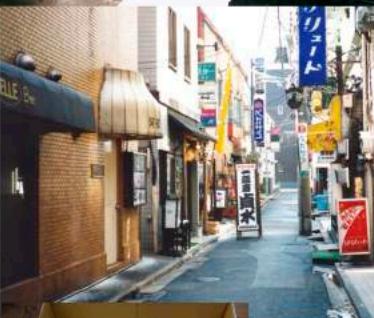
秋葉原はハードもソフトも激変し、

かづだ。それからほいすゞのラーメンソーソ秋葉原デパートのソフトクリームつてのが、僕の秋葉原食の定番になつた。

これまで秋葉原デパートのスナックコーナー専門だった僕の昼食に突如出現したのがラーメン屋『いすゞ』だった。勿論、やつちや場が何処にあつたかすらボンヤリしてしまった。でも辛うじて生き残るガード下風景を見るたびに、あの生姜

スープを思い出すのだ。

卷之三



論店はずつと前からあつたけど、駅の立

上野仲通りに足を踏み入れたのは、もう大人になってからだ。それだって鈴木に行くようになつてから後、食事するところ、うようよ二

て風情の吉州が、僕の目の前で江戸前の啖呵を切るのだ。もうそれは格好良いというより、身が燃み上がるほど怖かった。何句か

その直後に食事をするため、ちと遅いと
邪魔する程度。大人の夜の世界という感じが
あり、しかも怪しげな空気感もあつたので、同
品格漂う伯龍の水畠古、近所のち

じさんみたいな山陽が凛として語る軍談、諷々とした貞丈…、

、ジャズ喫茶がり、私語禁止的な張り紙が、利
用者を接待する、運営する、ドレーパー、あら中
てくる人はみんな曲者。名前と顔だけは口つこ貞女ではない。

者を廣しく選別するハートルは見えぬ。あれ何よりは喫茶店すらおつかないと思つていた。

平成元年前後、唐突に講談の凄さを知つてかけ、イカす修羅場も講じるのが夢

、その怪しい通りの奥の、知らなきや入れない
信（アマニ）が田道（アシマツ）をうつて、
しかつた。僕は神田山裕（カミタヤマヒロ）といふ
イイノハ、イイモ、イシモの屋（ヤマ）を

本店と並ぶホテルが並ぶ通りを歩く事はない。本での知識しかない「本牧亭」が、場所も琴柳という若手が好きになつて、

焼模も変えて、料理屋の二階にあつたのだ。

まだ分裂前の講談界にギリギリ同居してゐる二つの派閥である。

講師の奥まで見えなかが近距離で聞く高座は、強烈な臨場感と新鮮な面白さに満ちていた。と同時に、それまで歩いた正面の間に会ったのは幸せながらも

異様に色白で、もう一生分の酒は飲んできたつ
なかつたエリアを覗き歩く樂し

さも覚えた。行くたびに道に迷う

日のトリの名を大書した看板が、怪しい路地に立っていた。



観光客という野次馬が行き交って 梅里

高級句誌
俳人同様
Haijin Doyo
三朝庵梅里・筆
SAN CHO AN BAI RI

東武電車の浅草駅を、飲み込む松屋デパートと、神谷バーとの間を走る、馬道通りに馬いるか？ 野次馬根性丸出しで、ワールドワイドな観光客を、かき分けかき分け進み行く、門出を祝うか馬刺しの幟、縁起良いやら悪いやら、新仲見世を横切つて、富士珈琲で豆仕入れ、伝法院の通りも渡り、馬じやな

いけど大印、老舗鞆屋眺めつゝ、奥は名刹浅草寺、横目で拝んで店で溢れたる、中国韓国名国語、真っ直ぐに、静かな横道ホツトして、三社裏には名も高き、鳥居に新門辰五郎、江戸の名残を

感じつつ、おでんの匂いも感じつつ、言問通りの交差点、渡れば鞆屋に鞆メイカ、馬革くら馬道終着ゴールイン、文豪使いし原稿用紙、自分ばり褒美一筆箋通りの向こうは山谷堀、廻返して帰り道、蝶ネクタイの喫茶店、クリーミーソーダで喉潤して、馬いぬ馬道ゆり旅。

いはありそつて、象潟警察お富士さ

ん、火の用心の小旗には、馬三町会染

め抜かれ、かつてはあつた町名が、談

志師匠もお気に入り、食堂廃業衰し

いメニュー、目の前交わる吉野通り、

馬道終着ゴールイン、文豪使いし原

稿用紙、自分ばり褒美一筆箋通りの

向こうは山谷堀、廻返して帰り道、蝶

ネクタイの喫茶店、クリーミーソーダ

で喉潤して、馬いぬ馬道ゆり旅。

人様の足元見ろなど育てられ

ここまで聞こえぬ高塔馬耳東風



雨戸には桂馬の図柄あるという



浅草馬道の旅



